

「この分野を志したきっかけ」

私が、産業心理学などに興味を持ったのは、人間の行動を分析することに興味を持ったからです。大学でゼミナールの先生と話しているうちに、産業心理学や人間工学に興味を持ち、進んで勉強するようになりました。当時、ファーストフードのチェーン店で販売のアルバイトをやっていました。深夜になると頭がもうろうとしてきて、お札を出したお客さんに間違いなくお釣りの小銭を渡しているか不安になりました。今のように、お客さんの前でお釣りを数えて渡すというマニュアルは当時ありませんでした。渡した小銭をお客さんが細かく数えているのか、それとも財布にそのまましまっているのか、お釣りを渡した後、ついお客さんの観察をしました。そうすると、若い人、歳をとった人、

男性、女性で違いがあるように感じました。そこで、お釣りを確認する行動は、お店の場所によって違うのか、自動販売機になると違うのか、またはどのような年齢の人たちがよく確認するのか興味が湧きました。ゼミナールの後輩たちに協力してもらい、いろいろなお店、飲み物の自動販売機、駅の乗車券自動販売機などをお客さんに気づかれない位置から観察しました。すると、高齢者はよく確認し、若い人は確認しない傾向が見られました。さらに、乗車券

- 産業・組織心理学
- 人間関係論
- 外書講読Ⅰ・Ⅱ(英語)
- 労働安全衛生
- 労務管理
- 産業社会学
- アーゴノミクス研究
- アーゴノミクス特論



久宗 周二

(ひさむね しゅうじ)

高崎経済大学経済学部 卒業、日本大学大学院生産工学研究科 管理工学専攻博士前期課程修了、北海道大学大学院水産科学研究科 博士(水産科学)授与

自動販売機などでは使い方がわからなくて、困っている人も多く見ました。同時に実施したアンケート調査でも自動販売機はわかりづらいなどの意見もあり、自動販売機の使いやすさについても考察し、卒業研究としてまとめました。そのころは高崎経済大学に大学院がなかったので、ゼミナールの先生の勧めもあり、工学系の大学院で人間工学を専門的に学ぶことができました。その後、漁業者の行動分析をまとめて博士論文にまとめたりしていますが、今でも自動販売機に限らず、いろいろな人の行動をつい観察して分析しています。皆さんも、いろいろな視点から人の行動を観察してみませんか。